引導下炬

歴尾将尽、将に令和六年の暦が終わりに至り皆が一年の営みを結びゆこうとする大晦日の夜、此処に八十有●歳の人生の、その尊き営みの一切をなし終えて、寂然としてこの世の命を結び去らんとするの人あり。魔風一度吹きてついに帰らず、悲しいかなせん方もなく今ここに貴方をお送りいたします。

導師作法

爰に新蓮台、俗名 ●●●● 贈る戒名を●●●●信女と号す。

今静かに思い起こせば、霊位は昭和●●年、●●山 脈に囲まれ、自然豊かな渓 流が流れる●●県●●町、●●夫妻のもとに第3子次女として生を受けられました。幼少期は戦時中から始まり、敗戦後は日本全体が復興するための大変な時代でありましたが、貴方はその大変な時代を乗り越え、無事成長され、学業を終えたのちは生 涯のご職 業となる看護師としての道に進まれました。そして、看護師として、長きに渡り多くの人々の健康を支援し、その背景にある幸せな生活を支え、医療の現場でご活躍されました。また、私生活では最愛の夫となる●●●●氏と縁を持ち●●家へ嫁ぎ、貴方はその幸せの中で2人のお子様を授かりました。愛 情を持って懸命に養育され、様々なご苦労にもすべて誠実に向き合ってこられたからこそ、家門は今日 隆 盛し今の●●家となり、こうして立派になられたお子様やお孫様方に見守られています。

悲喜交々の言葉のとおり、様々の喜びや悲しみを、夫を助け子をいとおしみ、我が子の為に悲しみ、我が孫のために喜び、貴方は其の人生を力いっぱい精一杯に生きておいでに成りました。

在りし日の日々輝いて過ごされた貴方のお姿、お子様方にも尊敬され看護師として活躍された貴方のお姿、熱心に筆をとり水彩画に取り組まれる等自らの人生に彩を与えられた貴方のお姿、また様々な事柄をさも飄々と進めて行かれた頼もしい貴方のお姿など、貴方が歩んでこられたことを物語る全てのお姿が、これからも私たちの心にとどまり、時として人生の道しるべとなってくださることと存じます。

然して、彼の秋の木の葉が、一夏のやくめをなしおえて、そっと其の梢を離れて行くように、貴方は其の人生に授かった一切の役目をなしおえて、享年八十●歳を生き終え、今日静かに、浄土への旅立ちと相成りました。

此のなまみの身体を持つかぎり、病むことは、そして命終る日を迎えねばならぬということは、だれひとりとして逃れる事の出来ない哀しい定めであります。

既にして、その身の上に起って来たことは、そして、どうしても逃れる事の出来ないものは、そのままに、正しく受けて行くより道はございません。

貴方と共に幸せな人生を歩み、晩年は闘病の日々をささえ世話してくれた家族親族、その方たちの深い愛情に感謝して、その世話を受けることが出来たことを此の世の幸せとして、どうぞ安らかに如来のみ国にお帰えりください。本日葬送の儀に臨み、家族、親族、共に集い、貴方への大きな大きな感謝の気持ちを胸に、共に合掌して阿弥陀如来のみ名を唱え、ここに貴方をお送りいたします。どうかお浄土に在りて、先に旅立ったご先祖様とともに、後に残りしご家族を見護りつつ、ほほえみの中に生き給わんことを念じ上げます。

新蓮台、●●●●●信女霊位　諦かに聴け、諦かに聴いてよく之を思念せよ。

霊位、今、多生廣劫を経ても生まれ難き人界に生まれ、無量億劫にも遇い難き仏教に逢えり。この度、生死を離るる道、浄土に生まる。彼の国に生まるること、ただ弥陀の本願に乗り、生死の海を渡り、極楽の岸に着くべきなり。

阿弥陀仏、かねて末代の衆生を憐み、無上殊勝の大願を起こし、易修易行の念仏をもって直ちに往生を得せしめ給う。これを念仏往生の本願と言う。

すなわち無量寿経に曰く、もし我れ仏を得たらんに十方の衆生、至心に信楽して我が国に生ぜんと欲して乃至十念せんに、若し生ぜずば正覚を取らじと。

まさに知るべし、本誓の重願空しからず、衆生称念すれば必ず往生することを得。

今当に霊が往詣楽邦の首途に臨みて一句餞せん。

釈迦はこの方より発遣し、弥陀は彼の国より来迎し給う。かしこに喚びここに遣る。あに行かざるべけんや。

更に一句を示さん

親と呼び母と仰ぎし年月を

思い返して涙するなりと（十念）

後段訳

よく聞いてください。よく聞いて、この教えを心に深く念じてください。

今、私たちは非常に長い間（多生広劫）輪廻を繰り返してもなかなか生まれることのできない人間としてこの世に生まれ、また数限りないほど長い時（無量億劫）を経ても巡り会うことのできない仏教の教えに出会うことができました。

この度、迷いの世界（生死）を離れる道、すなわち浄土に生まれるのです。かの極楽浄土に生まれることは、ただ阿弥陀仏の立てられた本願に身をゆだね、海のように広い迷いの世界を渡り、極楽の岸にたどり着くのです。

阿弥陀仏は、あらかじめ、お釈迦様がなくなって相当の期間が経過した時代の私たちのような者たちを深く憐れみ、この上なく優れて特別な誓い（無上殊勝の大願）をたてられました。そして、修めやすく行いやすい念仏によって、直ちに浄土に往生できるようにしてくださりました。これを「念仏往生の本願」といいます。

すなわち、『無量寿経』には、次のように説かれています。「もし私が仏になった時に、あらゆる世界の人々が、心から（至心に）私を信じ慕い（信楽して）、私の国に生まれたいと願い、わずか十回でも念仏を称えるのに、もし彼らが往生できないようであれば、私は決して仏の悟りを開かない（正覚を取らない）」と。

そして今、阿弥陀様のこの重い願いは実現し、私たちが念仏を称えれば、必ず浄土に生まれることができるのです。

今まさに、安らかな浄土（楽邦）へ旅立つ門出にあたり、最後に一句を贈ります。

お釈迦様は、この世（娑婆）から「行きなさい（発遣）」と送り出してくださり、阿弥陀様は、あの極楽浄土から「迎え入れよう（来迎）」としてくださっています。あちらから呼び、こちらから送り出すのです。あなたは必ず往くのです。

更に一句を送ります

親と呼び母と仰ぎし年月を

思い返して涙するなりと（十念）

浄土宗西山深草派高城山帰命院十念寺沙門賢空

参考文献：四季社浄土宗下炬事例別集成